

“アメイジング・グレイス”と奴隷貿易

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

アメイジング・グレイスは、ジョン・ニュートンの作詞による賛美歌。特にアメリカで最も愛唱され、またバグパイプでも演奏される賛美歌の一つ。作詞者はジョン・ニュートン (John Newton)。作曲者は不詳。アイルランドかスコットランドの民謡を掛け合わせて作られたとしたり、19 世紀に南部アメリカで作られたとするなど、諸説がある。ジョン・ニュートンは 1725 年、イギリスに生まれた。母親は、幼いジョンに聖書を読んで聞かせるなど、熱心なクリスチャンであった。しかし、ジョンが7歳の時、彼女は死去する。成長したジョンは、商船の指揮官であった父に付いて船乗りとなったが、さまざまな船を渡り歩くうちに、黒人奴隷を輸送するいわゆる「奴隷貿易」に手を染めるようになった。当時、奴隷として拉致された黒人への扱いは家畜以下であり、輸送に用いられる船内の衛生環境は劣悪であった。このため、多くの者が輸送先に到着する前に、感染症や脱水症状、栄養失調などの原因で死亡したといわれる。

ジョンもまた、このような扱いを拉致してきた黒人に対して当然のように行っていたが、1748 年 5 月 10 日、彼が 22 歳のとき、転機はやってきた。船長として任された船が嵐に遭い、非常に危険な状態に陥ったのである。今にも海に吞まれそうな船の中で、彼は必死に神に祈った。敬虔なクリスチャンの母を持ちながら、彼が心の底から神に祈ったのは、この時が初めてであったという。すると、船は奇跡的に嵐を脱し、難を逃れたのである。彼はこの日を、みずからの第二の誕生日と決めた。その後の 6 年間も、ジョンは奴隷を運び続けた。しかし、彼の船に乗った奴隷への待遇は飛躍的に改善されたという。

1755 年、ジョンは病気を理由に船を降り、勉学を重ねて牧師となった。そして 1765 年、「Amazing Grace」が生まれたのである。この曲には、黒人奴隷貿易に関わったことに対する深い悔恨と、それにも関わらず赦しを与えた神の愛に対する感謝が込められているといわれている。

この作詞者のジョン・ニュートンは 18 世紀にイギリスで奴隷商人をしていた男でした。彼は荒くれ者であり、奴隷に対しても冷酷な男でした。しかしある日大きな嵐に遭遇し、死に直面したとき、初めて「神様、助けてください。」と叫んだのです。幸い命は助かり、その後、彼が7才のときに亡くなった母が残してくれた聖書を読み始め、クリスチャンになり、生まれ変わりました。そのとき彼は 23 才でした。そんな彼が、「こんな愚かな、どうしようもない者をも神は救って下さった。」という恵みを歌ったのがこの讃美歌です。

日本語では2種類の歌詞があります。

讃美歌「われをもすくいし」

我をも救いし　くしき恵み	迷いし身も今　立ち帰りぬ
おそれを信仰に　変え給いし	我が主の御恵み　げに尊し

聖歌「驚くばかりの」

驚くばかりの　恵みなりき	この身の汚れを　知れる我に
恵みはわが身の　恐れを消し	任する心を　起こさせたり

歌詞と訳が裏にあります

奴隷商人として奴隷たちを冷酷に扱ってきたニュートンがその罪の恐ろしさに気づき、そんな自分をも生まれ変わらせた「驚くほどの」神の恵みを詩っています。1 番の後半の生まれ変わった喜びの部分が日本語の讃美歌では十分に表現されず、聖歌では欠けてしまっているのが残念です。

Amazing grace! how sweet the sound	驚くほどの恵み、なんとやさしい響きか
That saved a wretch like me	私のようなならず者さえも、救われた
I once was lost, but now am found	かつて私は失われ、いま見出された（神の元から迷
い出た存在の意味）	
Was blind, but now I see.	盲目だったが、今は見える（心、たましいの目のこと）

'Twas grace that taught my heart to fear	私のこころに畏れることを教えたのは恵み（神を畏れる
こと）	
And grace my fears relieved	そして、私の恐れを解放したのも恵み（何ものをも恐れないこと）
How precious did that grace appear	なんと素晴らしいことか
The hour I first believed	私が最初に信じたときに現れたその恵みは

Through many dangers, toils, and snares	多くの危険、労苦、誘惑を
I have already come	私は通ってきた。
'Tis grace hath brought me safe thus far	ここまで私を無事に導いてくれたのは恵み。
And grace will lead me home	そして恵みは私をわが家（天国）に導いてくれる。

The Lord has promised good to me,	主は私によきものを約束された。
His Word my hope secures;	彼のみことばがわたしの希望の保証
He will my shield and portion be,	彼は私の盾であり、分け前。
As long as life endures.	人生の続く限り。

Yea, when this flesh and heart shall fail,	この体と心が衰え
And mortal life shall cease,	死ぬべき命が終わるとき
I shall possess, within the veil,	私は手にいれるだろう。
A life of joy and peace.	隠されていた喜びと平和のいのちを。

The world shall soon to ruin go,	世界はまもなく滅び
The sun refuse to shine;	太陽は輝きを失うだろう。
But God, who called me here below,	しかし、私をこの世から呼び出す神は
Shall be forever mine.	永遠にわたしのもの。

When we've been there ten thousand years	私たちは、いつまでもそこにいて
Bright shining as the sun	太陽のように輝き
We've no less days to sing God's praise	神への賛美を歌う日々が減ることはない。
Than when we first begun	最初に（賛美を）始めたときから。